

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、毎年見直しを行っている。とくに 2018 年度 4 月の学部改組による授業科目の大幅変更を踏まえ、学年進行にともなう授業の円滑な進行を図りながら、実施状況の把握に努めた。	3 年生以降の演習および卒業論文作成を意識した教育を、1 年生対象の基礎演習と共通演習など複数の科目で実施した。とくにプレゼンテーション力を高めることを目的とした。	シラバス作成、成績評価を大学の基準を順守するとともに、ディプロマ・ポリシーの検討を行い、あらためて教員間でその意味を共有した。	実験、演習、農業実習のほか卒業論文を必修としている。とくに卒業論文は、学生との密度の高いコミュニケーションが必要であり、重視している。また客観的評価として、卒業論文に学科長賞を設け多くの学生の意欲向上を図っている。	教育課程及びその内容、方法の適切性は、学科長・主事他数名の教員からなる農学科カリキュラム検討委員会を設置し協議している。定期的に学科会議などに諮問、協議して、改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 農業実習（一）（二）（三）や生物学実験などを配し、実習と実験を重視したカリキュラム体系になっている。	【長所】 卒業論文を早い段階で意識させ、問題解決能力、計画力、思考力やプレゼンテーション力を身に付けさせられる。	【長所】 実習を重視することで、知識だけでなく、思考力、判断力、問題解決能力を身に付けさせられる。	【長所】 全員に卒業論文に取り組ませることで、学習成果の把握を可能としている。	【長所】 農学科の特徴である実習重視の教育方針を、堅持できている。
	【特色】 伊勢原農場の協力を得ながら、濃い内容の実習教育を実施している。学科に配置している 6 研究室の特色を最大限に活かした生物学実験（2 年次配当科目）を実施して、3 年次での専門分野を学ぶ研究室選択に役立っている。	【特色】 情報基礎（一）（二）を学科独自に開講し卒業論文作成へのテクニカルな部分を早期に習得させている。 ・選択科目であるが、「農業インターンシップ」での学びは、学習の活性化に大きな成果を挙げている。	【特色】 社会人や大学院生として主体的、協働的な活動ができる能力を重視した評価となっている。	【特色】 卒業論文は 3 年次のできるだけ早い段階から意識付けを行い、卒業後の幅広いニーズに対応できるよう配慮している。 ・定期試験のみの評価ではなく、小テストなど多面的な評価の導入を進めている。	【特色】 実習は伊勢原農場の協力が欠かせない。協力を得ながら、中身の濃い内容となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 学生の個々の履修において選択の幅が狭い。
	【課題】 COVID-19 の対策として実施する遠隔授業の充実	【課題】 COVID-19 の対策として実施する遠隔授業の充実	【課題】 COVID-19 の対策として実施する遠隔授業の充実	【課題】 COVID-19 の対策として実施する遠隔授業の充実	【課題】 COVID-19 による 4 年生での教育実習の長期化（地方での実施前の隔離）や中止
根拠資料名	資料基 1 （令和 2 年度時間割）	資料基 2 （基礎・共通演習資料）	資料基 3 （3 つのポリシー）	資料基 4 （卒業論文優秀賞一覧）	資料基 1 （令和 2 年度時間割）

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 （☑を記入）	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	2018 年 4 月からの学部改組が実施されたことを踏まえ、学科の独自性を確保しながら、農学部全体を盛り上げるべく、出張講義等に赴き学生募集に取り組んだ。さらに、入学センターと連携を密にし、新しい入試制度である指定校選抜のスムーズな導入に向けて検討を重ねた。加えて、共通テスト利用の 2 科目型の導入に際して科目を選定した。個々の入試制度の目的にそって、口述試験（面接）の評価基準を更新した。	農学部入試広報委員会と連携を取りながら、改善・向上に向けて取り組んでいる。とくに出張講義には力を入れて、高校生からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどの改善に活かした。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学科の入試問題作成委員を中心に、適切な入試問題の保持につとめた。	【長所】 入学センターを中心に、農学部その他 3 学科と連携して制度や体制の見直しを図っている。
	【特色】 引き続いて公正な実施に向けて体制を整備した。	【特色】 農学部全体の取り組みの中で、農学科としてできることを明確にした。その中で、生産農学という軸は維持しつつ、消費者との連携を意識することにした。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 受験者数の減少が著しい。	【問題点】 研究室選抜などの客観的基準として GPA を利用する場面が増えているが、数は少ないものの編入、転入、転学科転学部生と 1 年生から入学した学科学生との公平性を保つ方策を立てられていない。
	【課題】 コロナ禍での受験者確保に向けた活動。	【課題】 なし
根拠資料名	資料基 5 （令和 2 年度出張講義一覧）	資料基 5 （令和 2 年度出張講義一覧）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本年度、大学、学部の方針に則って、農学科でも以下の通り明示した。 1. 持続可能な次世代型農業の創造に貢献できる教員 2. 農学に関する知識を基盤に、作物生産の発展に資する教育・研究能力を持つ教員 3. 農学に関する知識を基盤に、農産物の生産から流通までを支える技術の発展に資する教育・研究能力を持つ教員	学科の教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。さらに、研究室の教員間のコミュニケーションの向上を図るために研究棟の研究室配置をフロア毎に再配置した。 新人事を進めるにあたって、編制方針を意識した。	本年度新たな教員募集、採用はなかったが、昇格人事については適切に行った。また任期制教員への指導も、「大学任期制教務職員の専任化審査判定表」に基づき適切に行った。	研究室（学科）横断型のプロジェクトやそのシーズとなる卒業論文の推進などを通じて、教員の質の向上に努めた。	学部改組にともない、農学科も新生農学科として生まれ変わり、研究室を改変した。学科内の主任会において、教員組織の適切性について、点検・評価した。また今後の教員採用に際し、農学科の未来を見据えた議論を行った。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 農学科のディプロマ・ポリシーにのっとり内容になっている。	【長所】 実習教育を意識した教員配置になっている。	【長所】 なし	【長所】 研究室間、学科間のコミュニケーションを意識して、プロジェクト研究の立ち上げ、実行に力を入れている。	【長所】 なし
	【特色】 研究室はもとより、分野を意識した内容になっている。	【特色】 研究活動を教育に活かせる教員を配置している。	【特色】 なし	【特色】 地域社会とも結びつくことで、研究成果の社会還元に取り組み、教員の資質向上を図っている。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	資料基 3 （3つのポリシー）	資料基 3 （3つのポリシー）	資料基 6 （専任化判定表）	資料基 7 （研究成果概要）	資料基 8 （学部・学科・課程紹介）

学部・研究科名 農学部
学部長・研究科委員長名 小川 博
学科名・専攻名 動物科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	H30 年度に農学部を改組し、現在、畜産学科と動物科学科のカリキュラムが学年毎に進行している。	教育・研究に関する学生の発表を教室以外のオープンスペースで積極的に実施している。	成績判定会議の結果を学科教員全員に開示し、確認している。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議で確認している。	教育課程及びその内容、方法の適切性について学生による授業評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学部としての学生像もふまえた、学部共通科目の充実	【長所】 ・討論へ自由参加	【長所】 ・成績評価の共通理解	【長所】 ・学習効果の共通理解	【長所】 ・定期的に点検・評価
	【特色】 ・ 3 学科対制から 4 学科体制 ・ 農学リテラシー	【特色】 ・ オープンスペースの活用	【特色】 ・ なし	【特色】 ・ なし	【特色】 ・ なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ なし	【問題点】 ・ なし	【問題点】 ・ なし	【問題点】 ・ なし	【問題点】担当教員の評価が適切であるのか現状では判断出来ない。
	【課題】 ・ H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。	【課題】 ・ H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。	【課題】 ・ H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。	【課題】 ・ H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。	【課題】 ・ H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。
根拠資料名	カリキュラム・ポリシーとシラバス	オープンスペース利用記録	合同教授会、進級等の資料	学科会議議事録	全学 FD 委員会でデータを保管。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	学部としての学生像を踏まえ、学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。	出張講義には力を入れて、高校生ならびの高校教員からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどを改善した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験科目の検討	【長所】 ・学部としての制度や体制の見直し
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	世田谷入学センター入試選考委員会議事録	世田谷入学センター入試選考委員会議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・大学・学部の方針に則り、生命科学関連および良質で安全な食料を生産する生産科学領域で活躍できる人材を養成し得る強い意欲と能力を持った教員	・教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。	・教員の募集、採用は完全公募制とし大学ホームページならびに JRECK-IN で公開している。 昇格基準を満たした教員に対しては、昇格申請を提出する様に指導している。	・任期制教員に対しては、毎年教育・研究目標の達成状況を面談にて確認している。任期制教員以外は、大学が実施している自己点検のみに委ねている。 ・ベストティーチャー賞，ベストレクチャー賞を学部毎に毎年選出している。	・年 2 回、学科教授会において教員組織の適切性（特に職階と年齢構成）について確認している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ディプロマ・ポリシーに基づいている	【長所】 ・学際的領域をカバー出来る学科教員体制	【長所】 ・複数の媒体に寄る公募のため一募集あたり 15 名前後の応募がある	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・研究室，分野を考慮した編成	【特色】 ・なし	【特色】 ・学部長，学科長，分野主任に寄る面談	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・一部昇格が停滞している教員がいる	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	・大学 HP の教員・職員公募案内 ・JREC-IN Portal	・東京農業大学農学部教員紹介 農学部 GUIDE 農のところで社会をデザインする	・大学 HP の教員・職員公募案内 ・JREC-IN Portal ・学科会議事録	・任期制教員面談記録 ・大学ホームカミングデー案内	・学科会議事録

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名生物資源開発学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、学科教員の講義に広く接する機会を設け、学生の教育効果の向上を図った。また、通常の講義以外にも生物多様性に関わる特別講義を例年実施しているが、コロナ禍のもと実施を次年度に見送った。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回講義において学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。開設 3 年目であるため学位授与は無い。	オリエンテーションやフレッシュマンセミナー、実習・演習、必修の専門基礎科目、分野別実験・演習時に学科の教育・研究目標を明示し、レポート等で学習成果の把握に努めている。	改組に伴い 1 年次生の実習・演習がほぼ学部共通の内容となったことで、学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 1 年次から、農学の基盤となる「生物多様性」を意識した教育を実施している。	【長所】 オムニバス形式の講義により学科教員の講義に広く接する機会を設けている。	【長所】 特になし	【長所】 実習ではポートフォリオの作成を指導している。	【長所】 ・教職員と事務職員で構成される「改組検討委員会」を設置している。
	【特色】 1 年次から、座学のみならず、実習・演習科目を前・後期に配置している。	【特色】 講義以外のプログラム実施による生物多様性に関する学習機会を設定している。	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 学科横断的な改組に関する検討委員会を定期的に開催している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名		1_1. 第 3 回資源の森ポスター（次年度に延期）			1_2. 2020 年度 改組点検委員会開催通知

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	本学科は特定の農用生物のみならず、野生の動植物から昆虫、薬用植物とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めており、入試課とも連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組むとともに、公正な入学者選抜に努めた。	開設年度より毎年、学科独自の新入生アンケートを実施し、入学後のミスマッチが起きないように、学科教員間で情報共有に努めている。さらに、新入生に対して学科教員ごとにクラス別懇談会を実施し、学生生活を円滑に送ることができるよう配慮している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 農学系のみならず理学（生物学）系、薬学系志望の学生にも魅力的な学科であること。	【長所】 アンケートを活用した入学後ミスマッチの防止に努めていること。
	【特色】 近年、農学分野でもその重要性が認識されはじめた「生物多様性」をキーワードとした学科紹介を徹底していること。	【特色】 出張講義、進学相談などあらゆる機会を捉えた広報宣伝活動による学科の教育・研究への理解促進に努めたこと。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名		2_1. 資源学科 新入生アンケート(案内),2_2. 資源学科 新入生アンケート調査項目, 2_3. R2 資源 1 年次 クラス別懇談会の案内, 2_4. R2 資源 1 年次 クラス別懇談会の実施教室

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部の方針ならびに学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	学科新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、維持されている。	令和4年4月着任教員の粹取り申請および令和3年4月における学科教員の昇任申請を適切に行った。また設置三年目となり、今後の大学院設置に向けて、昇任等を適切に行なった。	学内外の研究費への積極的な応募による教員の個人研究の推進、他機関研究者との共同研究の推進、さらには研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、学科会議等を通じ、組織内での役割分担の点検・評価を行うとともに、事務職員との連携を深め作業の効率的を計るよう努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 実験系とフィールド系教員のバランスを意識したこと。	【長所】 実験系とフィールド系のバランスが取れた教員組織となっていること。	【長所】 大学院設置を意識した人事計画。	【長所】 調査・研究に対する意欲が高い教員が多いこと。	【長所】 特になし
	【特色】 農学の基盤となる「生物多様性」をキーワードとする学科であるため、「植物・動物・昆虫・薬草・遺伝資源」と多様な分野をカバーする教員組織を謳っていること。	【特色】 農学のみならず理学、薬学、人間環境学と多様な分野をカバーする教員構成となっていること。	【特色】 特になし	【特色】 ほぼ全教員が学内外の研究費を獲得し、個人、共同研究プロジェクトを遂行するとともに、教育にも還元する努力をしていること。	【特色】 事務組織との連携を意識していること。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	3_1. 2020 年度・学部・学科課程紹介_3_農学部・生物資源開発学科	3_1. 2020 年度・学部・学科課程紹介_3_農学部・生物資源開発学科	3_2. 資源学科 2020 年度学科教授会議事録 3_3. 20201222_合同研究科委員会資料_農・応（抜粋）	3_5 ③2020 大学戦略 研究成果報告会概要	3_4. 資源学科教員の学内業務履歴 ver.5

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名デザイン農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	講義以外にも学生が積極的に関わることのできるプログラムとして、夏休みの地域調査の他、地域経済活性化などのプログラム作成し、興味のある学生が任意に参加できるようにしている。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記している。大学の基準に従った成績評価および単位認定を行った。完成年度を迎えておらず、学位授与はない。	学生の履修状況等を教員で常時共有し対応している。	学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 オリエンテーションを含め、積極的に社会と関わるプログラムを設定している。	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 前期は行えなかったが、後期からは 3 年次学生が主に様々なプログラムに学生が積極的に参加している。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	アドミッションポリシーに従った学生募集及び公正な入学者選抜を実施した。	新設 2 年目を迎え、学生の履修状況と興味のある領域についての把握を行い、3 年次以降のより専門的な教育と研究指導につなげられるように努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学科の特色でもある文系志望の学生を獲得するために文科系の入試科目を設定している。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	今後の適切な教員組織編成に関して、完成年度以降の方向性について検討を随時行っている。	学科を新設する際に予定された組織編成となっている。	適切に実施している。	学科会議等で検討を行っている。	定期的に点検評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録	学科会議議事録	学科会議議事録	学科会議議事録

学部名農学部

学部長名小川 博

学科名バイオセラピー学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☐ 一部している ☒ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム編成については数年に一度行われるカリキュラム変更に合わせて、科目構成、科目名変更などの見直しを行っていたが、 <u>現在では学科閉鎖が決定しているため、実施していない。</u>	学科共通項目として学問体系を学生に理解させるための学科独自のレポート用紙の使用（実験実習科目）、実験実習科目の目的を意識させるための教材の作成と説明を行っていたが、 <u>今年度は学科閉鎖に向けて研究室単位で工夫をした。</u>	例年、学生生活ハンドブック記載の単位、学習時間、欠席の取り扱いなど、履修に関わる事項および各科目での評価基準の説明を行っていたが、最終学年の在籍が大多数であり、目的が学生に定着したと判断し、今年度は行っていない。	入学時から卒業時まで一貫して、生き物・環境・人とそれらの関係性について学ぶことで学生が自らのバイオセラピー学構築を意識できるよう、指導を行っている。	複数担当科目については第三者によるシラバスチェックおよび学期初めにスケジュールおよび評価方法を学科会議にて議論し、改善に役立てている。単独開講科目については第三者によるシラバスチェック後、再度学科内に回覧し、シラバスの見直しに役立てている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ディプロマポリシーを意識した学問体系を具体化した教育課程編成になっている。	【長所】 学生の学問体系理解に役立っている	【長所】 学ぶことの意味を考えながら学修を行ったことの正当な評価として、学生が自らの成績を捉えることができる。	【長所】 学生が目的を見失うことなく学習できる。	【長所】 全学で共通導入されているシステムに準拠しているため、新所属の学科において元所属学科別の齟齬が生じない。
	【特色】 (学生は) ほぼ全ての科目から他領域への応用を意識できる。	【特色】 学問体系を理解させた上で、学生に他領域や社会での活用法を意識させることができる。	【特色】 なし	【特色】 学生の視野が広くなり、進路の幅が広がる。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	なし	なし	なし	なし	なし

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☐ 一部している ☒ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	<u>H30 年募集停止であるため、該当しない</u>	<u>H30 年募集停止であるため、該当しない</u>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	なし	なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ している ☐ 一部している ☒ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部における方針に則り、～～中略～～教員を研究室に配置する。以下の項目を満たすことを要件とする。 1. 農学を基盤とした生き物・環境・人とそれらの関係性に関する理解を有する教員 2. 人の健康と福祉に資する福祉農学の発展に寄与する意欲を備えている教員	H30 募集停止であるため、実施していない。	H30 募集停止であるため、募集および採用は行っていない。	委員会委員や外部からの委託業務等について、担当者一覧を学科開設当初から H29 年度まで記録し続けた。現在専任教員は全て改組後農学部の学科に異動したため、学科の業務自体を極力簡素化することに重点を置いている。	研究室当たりの学生数に対する教員数などの点検・評価は実施しているが、改組により人事の変更ができないため、改善は不可能である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学際的要素が強い教員組織編成であることが理解できる	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 組織の改善が不可能である現状が、学生への教育の質保証を損なうことにつながる危険性がある。
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	東京農大 HP（資料 1）	なし	なし	なし（業務の簡素化を行ったため）	なし

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①
目 標	学生と教員とのより良いパートナーシップの構築による学士力の向上
実行サイクル	1年サイクル（令和2年～3年）
実施 スケジュール	4月：新入生オリエンテーションの実施（1年生） 5月、7月：クラス別懇談会の実施（1年生） 9月：世界学生サミットへの参加（全学年） 11月：収穫祭文化学術展への参加（1年生、3・4年生） 通年：農業実習（一）（二）での学科独自の学内実習（1年生） 通年：学外農業研修・実習報告会の開催（全学年） 通年：演習・実験・卒論研究室における取り組み（3・4年生）
目標達成を測 定する指標	原級率、就職率および進学率
自己評価 （ ☒ を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	COVID-19による感染症のため、実施スケジュールで予定していた新入生オリエンテーション、世界学生サミット、農業実習（一）および学外農業研修・実習報告会の開催は実施できなかった。一方、1年生のクラス別懇談会は遠隔で実施、農業実習（二）では前期中に教員が総出でサツマイモの定植したことで収穫体験が実施できた。さらに、例年の収穫祭文化学術展に代わり、オンライン収穫祭において研究室単位での研究紹介に積極的に取り組んだ。今年度、想定外の遠隔と対面との授業形式の併用で教員と学生との新しいコミュニケーションの形が生まれたことで、より良いパートナーシップの構築にこれまで以上に幅ができた。この点については、検証を進めつつ次年度以降は一層の活用を図り、学士力の向上に繋げたい。原級率（1年生：3.9%、2年生：2.8%、3年生：4.0%、4年生：1.6%）、就職率および進学率ともに例年と概ね同様であり、目標は一部達成したが COVID-19による感染症の影響を受けたため要継続。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 1年生の文化学術展への参加は、3年生以降の研究室活動への動機付けとなり、希望の研究室に入るために単位数と GPA の向上を意識する学習となり学士力の向上に繋がる。3年生は、文化学術展に参加することで各研究室の研究内容をより深く理解できる。
	【特色】 文化学術展の印象は、3年次の研究室選択の大きな影響を与えている。目的意識とマッチした研究室選択は、卒業後の進路を決定づける。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 COVID-19による感染症のため、コミュニケーション力の向上に効果的な学外での農業研修、特に高齢者が多い農家での研修は実施が難しい。
	【課題】 高齢者が多い農家での研修に代わる研修の創出。
根拠資料名	資料包1（オンライン収穫祭）

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	研究室連携型卒業論文の推進による研究シーズの発掘
実行サイクル	1 年サイクル（令和 2 年～3 年）
実施 スケジュール	通年：大学院農学専攻と連携しこれを軸とした研究発表会等の開催
目標達成を測 定する指標	連携型卒業論文数
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	COVID-19 による感染症のため、各研究室の卒業論文計画発表や中間発表はオンラインでの実施であったが、卒業論文発表会は対面で実施することができた。しかしながら、年間を通して大学院生も学部生もキャンパスへの入構が制限されたため、緊密な研究室間および農学専攻との連携を図ることは困難であった。このような現状であっても、4 年生は卒業論文にしっかりと取り組んでくれたことで、学部生においても学会発表するとともに、次年度以降に研究シーズとして期待できる研究成果も少なくなく、研究室連携型卒業論文の推進による研究シーズの発掘への影響は最小限に抑えられた。目標は一部達成したが COVID-19 による感染症の影響を受けたため要継続。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 研究期間が限られたことで、逆に集中して研究に取り組み、SNS を活用した情報交換が活発に展開された。
	【特色】 所属研究室以外の研究室の教員、大学院生および学部生との交流が活発となる。さらに、所属研究室内の大学院生と学部生とのチームワークの質が向上する。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 COVID-19 の感染防止対策を徹底するための研究室での実験場所と時間の確保。
	【課題】 より緊密な研究室間の連携。
根拠資料名	資料包 2（令和 3 年度日本植物病理学会大会講演要旨）

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	東京農業大学の農学科としての特徴を活かした学生の確保	農業支援関連（公務員【農学・農業職】、教員【農業】、企業【種苗・農薬・肥料・機械・施設・流通等】およびJA）への就職支援
実行サイクル	1年サイクル（令和2年～3年）	1年サイクル（令和2年～3年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 通年：指定高校推薦型選抜導入の検討 通年：学科教員研究紹介の作成 8月：オープンキャンパス 5月、6月：キャンパスツアー（厚木、世田谷） 11月：進学相談会（収穫祭）	通年：企業等のインターンシップの周知 2月：公務員試験対策講座
目標達成を測定する指標	出張講義数 個人・団体見学対応数 相談窓口来訪者数 受験者数 新入生アンケート	就職者数
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	COVID-19による感染症のため、対面での対応が困難な場合が多かった。しかしながら、オンラインオープンキャンパスをはじめとする遠隔での対応を主軸として高校生への学科紹介を実施した。さらに、依頼のあった高校へは教員を派遣して模擬講義等を実施した。また、次年度の指定校選抜導入の決定に対応して、指定校候補の選定を完了させた。次年度に入り次第、指定校候補を絞り込み、決定した指定校へは赴き受験者確保に向けた説明を実施する。目標は一部達成したが COVID-19による感染症の影響を受けたため要継続。	キャリアセンターと連携して企業等のインターンシップの周知に努めた。公務員試験対策講座は、COVID-19による感染症の影響から例年の3倍程度の受講者となった。感染防止のため、厚木キャンパスの学生は対面とし、他キャンパスの学生にはオンデマンドで対応した。オンデマンド対応の結果、対面で受講した学生も含めて繰り返しの視聴が可能となり、学習効果の向上が見込める。学生に対する就職支援は長期的な取り組みが不可欠であり継続する。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 オンラインオープンキャンパスとなり全国からの参加が容易になった。	【長所】 実際には幅広い農業支援関連の企業、団体および行政機関を知ることができる。
	【特色】 事前の収録ができるため、対面では回りきれない施設の紹介も可能となった。	【特色】 公務員試験対策講座の講師のほとんどは、国家および地方公務員経験のある教員が担当している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 COVID-19 感染防止の徹底	【問題点】 なし。
	【課題】 より多くのオープンキャンパスへの参加者の確保。	【課題】 低学年への農業支援関連の企業、団体および行政機関の認知。
根拠資料名	資料包3（オンラインオープンキャンパス）	資料包4（公務員試験対策講座）

学部 農学部
学部長名 小川 博
学科名 動物科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	進級・卒業率の向上	卒業生による特別講義の実施	優秀論文発表会の実施
実行サイクル	4 年サイクル（平成 30 年度～令和 3 年度）	4 年サイクル（平成 30 年度～令和 3 年度）	
実施 スケジュール	・出席状況不良者への指導（毎年 6 月，7 月） ・成績不良者への指導（毎年 5 月，2 月）	・毎年前期 1～2 回程度（畜産学科同窓会共催）	・毎年 1 月（各研究室口頭発表 1 名，オンデマンド発表複数名）
目標達成を測 定する指標	・進級・卒業率	・実施回数	・実施の有無
自己評価 （ ☒ を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☒ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	100%，卒業，進級を目指したが，各学年数名留年者は出してしまった。	コロナ禍で実施できなかった。	コロナ禍でオンラインにて実施した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・担任によるきめ細かい指導	【長所】 ・同窓会との連携	【長所】 ・学科の他研究室の研究を聴講出来る。
	【特色】 ・メール，面談等による個別指導	【特色】 ・本学科卒業生に限定している	【特色】 ・オンラインとオンデマンドで実施。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・日程調整が難しい	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録	優秀卒論発表会講演要旨

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	学会発表への参加	論文発表への参画
実行サイクル	4 年サイクル（平成 30 年度～令和 3 年度）	4 年サイクル（平成 30 年度～令和 3 年度）
実施 スケジュール	年間を通じて	年間を通じて
目標達成を測 定する指標	具体的な指標は定めていない。	具体的な指標は定めていない。
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	研究室個々の活動と、研究室，学科，学部間の連携した活動	研究室毎の活動が多い
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い
	【課題】 ・学科 HP, 研究室 HP・FB での積極的な公開	【課題】 ・学科 HP, 研究室 HP・FB での積極的な公開
根拠資料名	関連学会 HP	PubMed, 関連学会 HP

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	改組に伴う新旧カリキュラムの円滑な移行
実行サイクル	3 年サイクル（平成 30 年～令和 2 年）
実施 スケジュール	・ H30（H29, H30 年度カリキュラムの混在） ・ H31～R2（H29, H30, H31（R1）年度カリキュラムの混在） ＊H31(R1)年度以降はカリキュラムは同じ
目標達成を測 定する指標	・ 時間割編成 ・ 単位取得状況
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・ 畜産学科カリキュラム（H29）、動物科学科カリキュラム(H30)、動物科学科カリキュラム(H31)が数年に亘り共存 ＊H31(R1)年度以降はカリキュラムは同じ
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ R 1 カリキュラム（適正開講科目の見直し）
	【特色】 ・ 農学部全学科横断的実習，演習，英語科目の設置
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ 新旧カリキュラムの混在（R3 年度から留年した学生以外は新旧カリキュラムは混在推しなくなる）
	【課題】 ・ 時間割編成（コロナ禍で時間割による教室の確保に苦労した）
根拠資料名	・ 時間割編成 ・ 単位取得状況

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名生物資源開発学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	4 年サイクル（平成 3 0 年～令和 3 年）	1 年サイクル（令和元年～ 2 年）
実施 スケジュール	年間を通じて：学科会議等 12～ 1 月：シラバス作成時	年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生生活の現状を共有する（4～3 月）
目標達成を測 定する指標	シラバスの作成と点検・見直し	学科会議議事録（教員への周知と議論内容）
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科会議等を通じて学科の教育・研究方針を教員間で議論し共有し、ディプロマ・ポリシーを意識したシラバス作成に努めている。学科会議は定期的に実施している。	学科独自の新入生アンケートの導入やクラス別懇談会の実施、必修科目を中心とした出席状況の把握と学科会議での情報共有に努めた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし	【長所】 学生の意識や学習意欲が把握できること。
	【特色】 特になし	【特色】 学科会議ごとに FD 関連の情報共有に努めていること。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 ディプロマ・ポリシーを意識したシラバス作成の継続に努める。	【課題】 特になし
根拠資料名	3_6. 資源学科 学科会議議事録 2020 年度	2_1. 資源学科 新入生アンケート（案内）,2_1. 資源学科 新入生アンケート調査項目,2_2.R2 資源 1 年次 クラス別懇談会の案内, 2_2. R2 資源 1 年次 クラス別懇談会の実施教室, 3_6. 資源学科 学科会議議事録 2020 年度

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	生物多様性の解明や保全、生物資源の利活用に関する総合的・横断的研究の基盤構築
実行サイクル	__4__ 年サイクル（平成30年～33年）
実施 スケジュール	<u>年2回程度の研究発表会等の開催</u>
目標達成を測 定する指標	<u>学内プロジェクトや外部資金申請数、採択数</u>
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	1 年次にはフレッシュマンセミナーの時間を活用して、2 年次には次年度の所属研究室選択に関する説明会の時間を設定し、各研究室・教員の研究内容説明を実施した。一方、コロナ禍で対面授業設定が限られており、学科教員の研究紹介ワークショップや各教員が現在取り組んでいる研究プロジェクトに関する情報を教員間および教員・学生間で十分共有できない面もあった。 学科の多数教員を構成員とし、採択された学内戦略研究プロジェクト（研究課題名：植物・昆虫・動物の多様性を指標とした島嶼農業生態系の評価と保全、期間：2019 年度～2021 年度）については、昨年度に引き続き研究が継続されている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 分野横断的な研究が促進される。 学科教員によるプロジェクト研究の推進により、生物多様性に関する研究基盤の構築が進んでいる。
	【特色】 学生を交えた発表会とすることで、発表する教員も分かりやすい説明を心がけ、専門分野以外の研究内容も理解しやすくなる。 分野横断的な研究展開により学科の特徴を分かりやすく発信できるようになる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし 【課題】 特になし
根拠資料名	4_1. R2 フレッシュマンセミナー, 4_2. 資源 研究室紹介説明 , 4_3. R02 研究室選択説明スライド, 4_4. 資料 1 R02 研究室選択に関する配布資料, 3_5 ③2020 大学戦略 研究成果報告会概要

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	__4__ 年サイクル（平成 3 0 年～ 3 3 年）
実施 スケジュール	<u>通年：出張講義</u> <u>通年：個人・団体見学対応</u> <u>キャンパスツアー、オープンキャンパス、収穫祭の進学相談時の対応</u>
目標達成を測定する指標	<u>来場者数</u> <u>受験者数</u> <u>新入生アンケート</u>
自己評価 (☒ を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	出張講義に関しては入試課の協力も得て、関連する分野の依頼があった際は積極的に対応している。個人・団体見学にも見学者の興味に応じた担当教員で対応している。また、コロナ禍での実施ということで、オンラインでの農学部説明会、オープンキャンパスに教員を派遣し、受験生の確保に努めた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 オンラインオープンキャンパスでは各研究室で現在取り組んでいる研究内容の紹介を行い、受験生が入学後の具体的イメージを持てるように図った。
	【特色】 植物から動物、昆虫、薬草、遺伝資源に至るまで幅広い分野の講義依頼への対応が可能である。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし
	【課題】 開設 3 年の新学科であることから、4 年目以降も学科を積極的にアピールし継続して受験者を確保していく努力が必要である。
根拠資料名	5_1. 農学部説明会(チラシ), 5_2. オンライン農学部説明会（詳細）, 5_3. 学部説明会_先生へ（依頼）, 6_1. オンラインオープンキャンパス概要, 6_2. 担当者・模擬講義入力フォーマット（資源）, 6_3 オープンキャンパス案内(チラシ), 7_1. 2020 出張講義一覧(資源)

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名デザイン農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	4 年サイクル（平成30年～令和3年）	1 年サイクル（平成31年～令和2年）
実施 スケジュール	年間を通じて：学科会議等 12～1月：シラバス作成時	年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生活の現状を共有する（4～3月）
目標達成を測 定する指標	学科会議の実施 シラバスの作成と点検・見直し	学科会議議事録（教員への周知と議論内容）
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科会議を定期的に実施している。	学科会議で課題点について検討を行う。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし	【長所】 特になし
	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	生物素材、食品素材等の機能性の解明やそれを応用した機能性製品、や機能性食品の利活用研究を行う。また食農デザインの在り方等に関しても基礎的研究から実践までの提案を行う。
実行サイクル	_____4年サイクル（平成30年～令和3年）
実施 スケジュール	<u>年1、2回程度の研究発表またはシンポジウム・セミナー等の開催</u>
目標達成を測 定する指標	<u>企業等の受託研究数および共同研究数、開発製品等</u>
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	各教員が専門とする研究領域において取り組みを進めている。 本年度は Covid-19 感染拡大を受けてイレギュラーな対応となったが、研究室学生受け入れをはじめた。 外部からの講師を招聘しセミナーを開催したが、様々な領域の知見を広められることについて学生の反応はとても良い。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし
	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし
根拠資料名	セミナー等の資料 学科会議議事録

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	4 年サイクル（平成30年～令和3年）
実施 スケジュール	<u>通年：出張講義</u> <u>通年：個人・団体見学対応</u> <u>キャンパスツアー，オープンキャンパス，収穫祭の進学相談時の対応</u>
目標達成を測定する指標	<u>来場者数</u> <u>受験者数</u> <u>新入生アンケート</u>
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	依頼のあった出張講義や見学依頼に積極的に対応している。 進学相談にも学科教員で対応している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし
	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし
根拠資料名	学科会議議事録等

学部・研究科名 農学部
学部長・研究科委員長名 小川 博
学科名・専攻名 バイオセラピー学科

1. 教育に関する総合的事項

	①
目 標	ディプロマポリシーを実現するための取り組み(含H28 からの継続課題;学科廃止まで継続する)
実行サイクル	4 年サイクル (平成 29 年～令和 2 年 ; 4 年目)
実施 スケジュール	毎年度、学科教員に対して、各学年に段階的にディプロマポリシーの根幹部分である「生き物・環境・人について学び、それらの関係性について考える」機会を与えるように、学科会議内にて指示する 指示内容 ① 4 年生に対して ; 東京農業大学における学びの中心である研究室において、専門的な教育を深めるとともに、受講した座学・実験実習演習内容が他研究室・分野、あるいは社会のどのような内容に役立つのかを考えさせる教育を研究室単位で行う ② 領域横断的、学際的要素の強いバイオセラピー学を個々で構築することに役立ち、ひいては他者にバイオセラピー学を説明する時 (例 ; 就職活動時に面接官に説明) に役立つことを説明する ③ これらをふまえ、目標を達成するための学科の業務の効率化の具体的手法 (具体案を示した学科会議等の予定) を学科会議にて周知する
目標達成を測定する指標	・学科会議議事録 (教員への周知内容)
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した (継続) ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☒ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	学科閉鎖に向けた業務の簡素化、改組後新所属学科の対応およびコロナウイルスへの対応により、通常業務および講義実習素材の作成とシステム化への対応等に追われ、教員に対する指示については行えなかった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし
	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 通常業務に加えて新所属学科での業務とコロナ対策など、業務内容が膨大になるため、セラピー学科運営業務への時間確保がかなわない状況にある
	【課題】 次年度は若干名の学部生と専攻がメインとなり、また学科と専攻の運営を一元化していく必要がある
根拠資料名	なし

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	生き物・環境・人に関する基礎的研究およびそれらの関係性に関する実践的バイオセラピー研究を継続し、学部改組後の新生農学部（農学 2.0 実現）の内容に貢献する知識基盤を構築する	学部生向け研究倫理教育を実施し、学士力の質向上に役立てる
実行サイクル	__4__ 年サイクル（平成 29 年～令和 2 年；4 年目）	__3__ 年サイクル（平成 30 年～令和 2 年；3 年目）
実施 スケジュール	R2 年度は農学部改組 3 年目に当たる。そのため、農学 2.0 のビジョンにのっとり、各々がこれまでの研究にさらに創意工夫を凝らし、新たな展開へと導くよう努力することを目標とする。	4 年生に対して；個々の教員が研究活動を通して実践的に実施（研究倫理教育は H30 年に全員に実施済み）
目標達成を測定する指標	・ 卒論題目（R2 年度版）	なし
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した（個々の教員に口頭にて確認したことをもって判断） ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	今年度は新型コロナウイルスの影響で、大学からの指示もあり、多くの学生が卒論題目や研究内容の縮小化・変更を余儀なくされたため、目標や実施スケジュールに合致した、満足できる成果は得られなかった。	実行サイクル全期間に複数回、研究倫理教育を全学生が受講。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 コロナ対応で規制が多かった	【問題点】 なし
	【課題】 セラピー学科に限らず、コロナ時代に適合した（With コロナの）研究法を模索する必要がある	【課題】 なし
根拠資料名	なし	なし

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	通常業務の効率化と学科教員の教育・研究のための時間確保
実行サイクル	<u> 4 </u> 年サイクル（平成 29 年～令和 2 年；4 年目）
実施 スケジュール	H30 農学部改組に際し、ほとんどのバイオセラピー学科の教員は新生農学部の 4 学科全てにそれぞれ異動した。これは、移行期にはほぼ全ての教員が 2 学科にまたがる業務を負うことを意味するが、改組後完成年度を迎えるまで現状の業務運営を続けていては、研究教育にかかる時間が大幅に削られる。そこで、限られた時間の中で極力研究教育の時間を、特に若手教員に確保していただくために、学科運営を効率化する。具体的なスケジュールとしては、①学科会議の内容を過去の運営ログから抽出し、会議開催回数を最小限にとどめる、②業務が均等に割り振られるように工夫（特定の教員に業務が集中しないように配慮）する。①と②をH29 年度より学科が閉鎖されるまでの間、継続する。
目標達成を測定する指標	・年間学科会議回数など、通常業務のまとめ資料
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	繁忙なコロナ対策及び改組による研究室及び教員の離散により、一堂に会することが極めて難しくなったため、専攻の会議にて必要な時に学科の議題を審議した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし
	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし（来年度は数名のみの学生が在籍予定であるため、対応の労力は大きくならないことが予想される）
	【課題】 なし
根拠資料名	なし